

平成28年度

自己評価報告書

平成29年3月



日本航空専門学校の沿革

1932年(昭和7年)	10月	・甲府在郷軍人航空研究会を母体とし、航空発動機練習所開設
1933年(昭和8年)	2月	・山梨県中巨摩郡玉幡村に40万平方メートルの飛行場を開設
1936年(昭和11年)	8月	・財団法人山梨航空研究会を設立し山梨飛行場を設置。サルムソン機を使用して、飛行士養成を開始。所有機数10機
1939年(昭和14年)	7月	・山梨航空技術学校設立認可を受ける
1988年(昭和63年)		・熊谷陸軍飛行学校甲府分校が設置され、飛行場を共用。通信省航空局より200名、南方航空岡9326部隊より300名の整備委託生を収容、在校生2,000名となる ・卒業生は陸軍航空廠へ軍属として全員優先採用される
1942年(昭和17年)	1月	・国家の要請により山梨航空機関学校と改称 ・航空整備士養成の専門校となる
1945年(昭和20年)	8月	・終戦により閉校
1960年(昭和35年)	3月	・学校法人梅沢学園、山梨航空工業高等学校の設置認可を受ける(学校教育法第一条による高等学校)
1964年(昭和39年)	6月	・学校法人日本航空学園、日本航空工業高等学校と改称
1970年(昭和45年)	10月	・日本航空専門学校(各種学校)の設置認可を受ける
1974年(昭和49年)	1月	・日本航空大学校と改称
1976年(昭和51年)	5月	・日本航空大学校(専修学校専門課程)の認可を受ける
1988年(昭和63年)	4月	・日本航空学園千歳校(専修学校専門課程)開校
1992年(平成4年)	4月	・日本航空大学校の航空整備科、航空電子科、メカトロニクス科の3学科を日本航空学園千歳校と統合する
1994年(平成6年)	4月	・日本航空学園千歳校を日本航空専門学校と改称
1995年(平成7年)	4月	・運輸省航空局航空整備経歴認定施設となる
	4月	・空港技術科を新設する
	5月	・白老滑空場開設
	9月	・労働省技能講習指定教習機関となる
1998年(平成10年)	4月	・郵政省無線従事者養成施設となる
1999年(平成11年)	4月	・運輸大臣指定航空従事者養成施設となる
2001年(平成13年)	4月	・航空整備科を3年制に改編 ・航空工学科開設
2002年(平成14年)	4月	・航空システム科を新設 ・航空工学科を航空技術工学科に改称
2003年(平成15年)	4月	・白老町に日本航空専門学校白老校開設 ・空港技術科パッセンジャーサービスコース開設
2004年(平成16年)	3月	・北海道労働局長登録教習機関となる
	4月	・国土交通大臣指定航空従事者養成施設となる

2006年(平成18年)	4月	・白老校に空港技術科航空観光ビジネスコースを開設
2007年(平成19年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・一等航空運航整備士コース新設、テストコース指定 ・航空整備科を一等航空運航整備士コース、二等航空整備士コース、二等航空運航整備士コース、システムコース技術コースの5コースに改編 ・一等航空運航整備士基本技術課程が国土交通大臣指定航空従事者指定養成施設に指定される
2009年(平成21年)	4月	・航空技術工学科を航空整備科に統合
2010年(平成22年)	4月	・一等航空運航整備士(B767)専門課程が国土交通大臣指定航空従事者指定養成施設として指定をうける
2011年(平成23年)	6月	・空港技術科航空観光ビジネスコースを商業分野として国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)に改編認可をうける
2012年(平成24年)	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)新設
2015年(平成27年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科海外研修コースに改称 ・航空整備科システムコース廃止
2016年(平成28年)	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(空港技術科、国際航空ビジネス科)
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科(2年制)の名称を国際航空ビジネス科エアラインコースに改称 ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科エアライン・留学コースに改称

日本航空学園 建学の精神

日本航空学園の創立者「梅沢義三」は、建学の精神を『航空教育を通して愛国の精神を培う』と心に決め、昭和7年に「山梨航空機関学校」を設立しました。航空教育を行い、国家に有益な航空技術者を養成するにあたり、自分を愛し、家族を愛し、郷土を愛し、国を愛し、そして人類の共存に責任を持てる航空技術者であればこそ、愛機心を以て操縦や整備に当たることができるとの信念に基づいて教育を始めました。

二代目理事長「梅沢鋭蔵」は、創立者の建学の志を基に、校訓を定めました。

そして、現在の理事長「梅沢重雄」は、建学の志や先代が定めた校訓を基に、より豊かで優れた人間力を持つ人材の育成を目指して、「J-ship」という教育コンセプトを定めました。

校訓

- 一、礼節を尊び忍耐努力の精神を体得すべし
- 一、熟慮断行以て風林火山たるべし
- 一、至誠一貫信義を重んずべし
- 一、質実剛健文武両道に徹すべし
- 一、敬神崇祖以て伝統を承継し祖国を興隆すべし

・ **J** は、**JAPAN**（日本）、**JAA**（日本航空学園）の略称頭文字

日本航空学園で学ぶ日本人、外国人の学生、生徒を **J-ship** で育みます。

・ **S** は、**SPIRIT**（精神）、**SOUL**（魂）の略称頭文字

豊かな自然、良き伝統、良き慣習、そして家族や友人、先輩、後輩などすべてのモノ、人に対して感謝と慈愛の気持ちを忘れない人間としての健全な精神、魂を持つ人であれ。

【自由と規律】

航空機は大空を自由に飛ぶことができます。しかし、飛行するためには安全が最優先されなければなりません。

このため厳しい規律に従い、整備士やパイロットは、安全運航に努めています。航空技術者としての誇りは、大空を自由に飛ぶために、最大の努力ができる不撓不屈の精神を持っていることです。己の精神と技術により、国を世界を支えていることにあります。

規律は安全への第一歩、学生生徒が自由に夢を描き、語りながら、社会人としての礼節、そして、生き方を学びます。

【想像と創造】

想像しなければ創造出来ません。人間の行為は全て想像→行動→創造と進みます。想像は願望、要求であり出発点、計画、目的、目標です。

生き甲斐を感じ充実した時間に満たされた自分を想像することにより、自分の精神が出来、創造活動が活発化し、魂が完成していきます。

心の態度で成功が決まるのです。

・ **H** は、**HEART**（心）、**HEALTHY**（健全）の略称頭文字

美しいものは美しいと感じ、良いと思えるものには素直に感動し、喜怒哀楽には正直で、他人を常に思いやることのできる純粋で、きれいで、奥深い心、感性を持つ人であれ。

【共感共創】

全国そして世界から集う学生生徒は一人一人が皆素晴らしい輝きを秘めた原石です。

ダメだ、出来ないなどマイナスの言葉を全て一掃し、出来る、可能だ、好きだ、嬉しい、楽しい、美しいなどプラスの発想で心を磨きあげるのです。

教職員も学生生徒も一緒になって学園全体を黄金で輝く愛のベールで包み、潜在する能力を開発し、学習やクラブにとともに取り組み、行事を創り試合やコンテストにチャレンジし、喜

びや成功を感じ、そして感謝して共に涙を流す人間的な心を育みます。

【健全性の育成】

健全とは心身共に健やかであることを意味していますが、健全な娯楽、健全な社会、健全な家庭、健全な学校があつてはじめて健全な青年に育成されます。学校と保護者は協力し合い、外部からの感情や刺激による衝動により言動が支配されることなく、分別や筋道をわきまえ冷静さを忘れず自分と所属する集団が正しく 保持できる状態を保てる公德心と健全性を育みます。

・ I は、IDENTITY (自己) の略称頭文字

母国と自分に誇りを持ち、自己の真の確立を実現するため、自分ならではの長所、個性をしっかりと伸ばしていく忍耐、努力を惜しまない人であれ。

【長所伸展】

人間は誰でも得意、不得意があります。これは個性です。不得手なものを解消することに囚われ過ぎると時間と労力がかかり却って自信喪失になります。得意なもの、好きなことを拡大することにより、短所はカバーされてしまいます。万人全て大いなる可能性と能力を秘めています。自己を信じることです。

【国際理解】

学園建学の地、山梨県甲斐キャンパスの万国旗掲揚塔に次の文章があります。

「大空は世界をつなぐ 友愛は平和を築く 海外から集いし若者達よ 全国から集いし若者達よ大地に立て 空を舞え」本学園にはアジアをはじめ世界各地からの留学生が在学しています。人種、言語、宗教、政治的信条、軍事力、経済力を越えて人類愛という友情で結びつき、共に苦しみ同じ喜びを分かち合える人間性 を育みます。航空人はエアラインで世界を結ぶ重要な使命を持っています。

それには、常に自国を意識して郷土愛、祖国愛を育み、共に助け合いそれぞれの祖国の繁栄に努めることの出来る大きな心の器を持った人間性を育むことが大切です。

・ P は、POWER (力) の略称頭文字

守るべき自分の夢、母国の未来、愛すべき家族の幸福を守るために必要な知力、体力を、不屈の志を持って鍛え上げていく文武両道に徹した力のある生き方のできる人であれ。

【目標に強く進む】

航空機は常に目的地に向い自差や偏差の修正を行い横風に流されず、向い風にも負けず、中間目標を捕捉しながら飛行し続ける強いパワーが必要なのです。そして着陸まで気を抜かず安全に留意するのです。学園は常に本物に触れ、体験しながら常に目的を忘れず意識し、目

標に向い進むことを大切にしています。これが、学習することの基本となります。そして、最終目的を絵や写真のようにいつもイメージすることが大切です。

【強運となる】

気運を背負ってる人間には強いエネルギーがあります。そのエネルギーがさらに強い運を呼び込むのです。運氣とはエネルギーです。引力のように其のエネルギーに引かれて幸運の女神はドアを開きます。成功を自分の力量と自惚れない、失敗を運や人のせいにしないで、全ての結果を絶対的肯定して感謝し、またチャレンジする度に運が強くなってパワフルな人生が歩めるのです。

日本航空専門学校のブランドプロポジション

「自由と規律」の人間教育と専門教育を通して感性と知性を
磨き社会に役立つ人財を育成する

■平成28年度 自己評価について

学校法人日本航空学園日本航空専門学校は、昭和63年に開校し、以来、航空業界へ有益な人材を多数輩出して参りました。充実した教育環境の中で実習・訓練を重ねた学生たちの就職率は、平成24年度以来100%を記録しています。今後も企業のニーズに即して教育環境の整備に努め、社会の発展に貢献できる人材の輩出に努めていきます。

本校では、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、自己評価に取り組んでおります。より良い自己評価を目指して教職員並びに評価委員が真摯に取り組み、現状の把握、課題及び今後の方向性を協議して参りました。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

1、対象期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「自己評価委員会」を設置し評価を行っています。
- (2) 評価は「専門学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果は、状況および課題と改善についてホームページで公開します。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しています。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■ 1 教育理念・目標

評価項目	評価(4～1)
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色を示しているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

状況および課題と改善策

- *教育の理念・目標においては建学の精神をもとに、校訓・Jship・ブランドプロポジションなど具体的かつ明確に定め、学科ごと企業との連携を図り社会の求められる人材育成を行っている。
- *人材不足など社会のニーズに応えるため、来年度より国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスに移転し定員の増加、男女共学化を実施する。また、白老キャンパスにおいては国際航空ビジネス科にドローンコースを設置し、操縦技術、情報処理だけでなくドローンを使ったビジネスモデルの教育など行う予定である。
- *教育理念、人材育成像などの周知は本校だけでなく学園全体で共有し、SNS などにより最新の情報を発信している。また隔月で授業、ボランティア、学校行事など、学校での様子を AVIATION NEWS としてまとめ保護者だけでなく、高等学校や資料請求者にも送付している。

■ 2 学校運営

評価項目	評価(4～1)
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

状況および課題と改善策

- *事業計画に沿った運営方針を策定し周知徹底されている。

- *運営組織においては各部署をまたいで委員会組織があり、毎週会議が行われ、各部署に共有できるようになっている。また、議事録がファイルされており教職員がいつでも閲覧できるようにしており、円滑な学校運営が行われている。
- *教育活動に関する情報公開については、今年度からHPを一新し、以前よりも見やすくなり、各種行事活動（ボランティア・イベント等）について随時公開されている。
- *業務の効率化についてはクラウドを利用したグループウェアシステムを導入して2年目になり、教員の活用・操作に理解が深まり、迅速な業務の効率化が更に図られている。

■ 3 教育活動

評価項目	評価(4～1)
教育理念に沿った教育課程の編成・方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における先端的な知識・技能的な修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *教育到達レベルを月末の確認試験で評価しレベルチェックを実施している。
- *カリキュラムは学科ごとに体系的に編成し関連企業との連携を密にとることでキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの見直しを進めている。
- *関連企業の現場から講師を招き実技・実習等を定期的に行うとともに、インターンシップで実践的な職業教育を行い資質向上に向けて取り組み認定要件に合わせ、企業との連携を体系的に実施している。また、電子黒板等を導入し教育の効率化も進めている。
- *事務局及び給食課においてもホスピタリティー研修、学生への対応などの研修を行っている。

- * 語学教育の向上に努め航空整備科・空港技術科では英語、国際航空ビジネス科では英語のみならず韓国語、中国語教育にも力を入れており国際的感覚を身に着けている。
- * 授業評価については研究授業を定期的に行い、授業内容についての意見交換や研修を実施し授業に反映している。
- * 教職員の研修は指導法、教育理念、安全・防犯等について計画的に行っている。実務についても定期的に関連企業の特別講習を開催し資質向上を図り研修等にも参加している。

■ 4 学修成果

評価項目	評価(4～1)
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

状況および課題と改善策

- * 就職率100%を維持している。今後も企業の望む人材を育成するため、本校の人間教育及びボランティア活動を充実させ、高い就職率を維持していく。
- * 資格取得に向け業界の状況、資格の必要性を教員が学生に伝えている。また、教員用シラバスの作成及びそれを基にした教員間での教育技法の改善、共通化を図っていく事により更なる向上及び改善を図っている。
- * 退学率の低減については引き続き外部の専門カウンセラーを配置し、担任と連携しメンタルヘルスのケアを強化することで低退学率を維持していく。また、ミーティングの実施により教員間で学生の状況を早期に把握し、ケアが実施できようになっている。
- * 卒業生によるOB、OG会を組織し、卒業生が来校して在校生に対して会社の状況、就職活動や資格取得に向けての心構え等を話してもらっている。これにより、卒業生と在校生、また、学校と卒業生の連携を図っている。

■ 5 学生支援

評価項目	評価(4～1)
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- *国内エアラインや大手重工業を始め、業界を代表する企業への就職希望者内定率5年連続100%の実績を誇っている。
- *学生の学業や進路、健康相談、その他悩み事などに対しては、担任教員や養護教員が親身になって相談を受け対処し、さらに定期的に部外から専門のスクールカウンセラーを呼び、個別に悩み事などメンタルな相談にも応じている。また、最近の傾向にある偏った食生活についても、養護教員や管理栄養士が一体となって健康管理なども行っている。
- *警察官による「覚醒剤防止講座」、司法書士による「法律講座」、人権擁護委員による「人権講座」を開催して、広く正しい人格形成を図っている。
- *在校生の7割以上が生活する寮では、環境を整えるため24時間態勢で勤務しており、放課後や休日でも勉強指導から生活指導など、衣食住に関してもトータル的に対応できるようにしている。
- *課外活動では、体育会系9部門、文化系4部門が活動しており、北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部主催の各種大会、社会人や他校との交流試合などにも積極的に参加するほか、武道の段位も取得させている。
- *保護者との連携においては、学生の勉強や就職、生活情報などを提供する「アビエーションニュース」を定期的に発送して最新情報を提供していますが、特別な連携を必要とする場合には、クラス担任を通じて電話、手紙、面談などを行って情報の共有化を図り、密接な対応や意思の疎通を行っている。
- *社会のニーズに対応するためにメディア情報だけでなく、国内エアラインから出向している教員や学生募集・進路指導の職員を通じて最新の情報を基に教育環境や生活環境を整えている。
- *高等学校との連携においては、電話、郵便物だけの繋がりだけでなく、募集担当者や教員自ら高校訪問を行って情報交換や連携を図っている。また、近傍の工業系高等学校からはインターンシップや職業体験の要請も数多くあり、小中高等学校生による見学会や進路担当の先生方だけの見学会とも合わせて積極的に受け入れを行っている。

■ 6 教育環境

評価項目	評価(4～1)
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- *大型機モックアップを設置しCA業務を実体験できる新しい実習棟の建設を進めている。また、女子寮も新築し施設の充実を図っている。使用する教材については、教職員が作成した物や企業から提供を受けた物などの利用、電子黒板の導入など教育に十分対応できるように整備しており、今後も継続していく。
- *校外のインターンシップでは、職業実践専門課程賛同企業のご協力の下、効果的に進めており大きな成果を収めている。今後も事前教育の質量共に改善を図り、仕事に対する意識向上や健康管理を含めて専門的な内容を教育し、人間性の向上を図っていく。
- *防災については、防災マニュアルを作成し、毎年千歳消防署員の立ち会いの下で防災避難訓練や消火訓練を実施しており、その内容については高い評価を受けている。また、白老キャンパスでは海岸から近いため、津波に対する避難訓練も毎年実施している。校内には災害対策の自動販売機を設置することで停電時に飲料品の供給が可能となった。
- *部署ごとの安全管理シートを作成し実習授業や業務における危険を整理し、対策・指導方法を文書化することで安全意識を共有している。
- *寮には防犯対策として防犯カメラを設置して防犯・安全対策を講じ、不測事態対策として、全学生が最低3日間生活できる飲用水・食料・医療品・救護品・発電機などの防災備蓄用品を備えている。このほか、サスマタや木銃を使った暴漢対処訓練を教職員研修会において実施している。

■ 7 学生の受け入れ募集

評価項目	評価（4～1）
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生の募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

状況および課題と改善策

- *今年度から日本航空大学校の募集部と合同で、高校訪問・ガイダンス・そらゼミを開催している。そのことで、操縦科や航空工学科なども含め、より幅広い業種の広報活動を広域的に展開している。
- また北海道内高等学校のインターンシップ等の受け入れを積極的に行い、高等学校の先生方の見学者が増加している。
- 航空業界の裾野拡大を目的として北海道内・全国の空港で開催の「そらゼミ」についても、各企業とコラボレーション企画を実施した。その中でも、実際に高校へ企業の方と本校教員が行って授業を実施する学校版「そらゼミ」も開催した。

■ 8 財務

評価項目	評価（4～1）
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

状況および課題と改善策

- * 学生数は増加傾向であり、学園の経営基盤は安定している。今後も学生数の増加による収入増を目指していくと共に、経費削減を図り、継続して中長期的な財務基盤の安定に努めていく。
- * 事業年度開始に当たって作成する予算に対し適時補正予算を組む等、予算の編成及び執行は適正に実施している。
- * 会計監査については、関連法規により公認会計士および監事により適正に行われております。財務情報についても、ホームページに情報公開の項目を設置し「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「貸借対照表」を公開しております。

■ 9 法令等の遵守

評価項目	評価（4～1）
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

状況および課題と改善策

- * 法令や設置基準の遵守については適正に行っている。
- * 個人情報の保護についても、雇用契約書にも明記しており、在職者・退職者共に周知徹底し遵守している。今後もより一層対策を強化していく。
- * 自己評価については、毎年の年度末に行う教員研修にて「本年度の問題点」「来年度へ向けての目標」を各部署がプレゼンテーションを行うことで、現状の問題点を明らかにすると共に、その対策および改善案について検討している。
- * 問題点・改善点については、学校全体で共有し、報告書をホームページで公開している。

■ 1 0 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価（4～1）
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

状況および課題と改善策

- * ボランティア活動は、世代を超えた人とのコミュニケーションや社会貢献を体験できる良い機会として捕らえて授業の一貫として取り組み体系的に実施しており、参加範囲は、冬季アジア札幌大会、北海道マラソンや千歳 J A L 国際マラソンの大規模な支援や国土交通省関連イベント、市や町内、学校関係の活動まで広範囲にわたっている。
- * 28年度のボランティア実績では、個人参加を除いて26件（昨年比+7）893名（昨年比+192）の学生が様々なジャンルに参加し、高い評価を受けている。このため、最近では口コミ評判を聞いて新たな要請が次々と学校に寄せられている。
- * 千歳航空少年団や千歳 J A L 国際マラソン事務局、チャリティー実行委員会からの要請により、校内敷地や体育館の使用のほか、トラック、長机、パイプ椅子、テントなどを貸し出して便宜供与を図っている
- * 熊本県の大規模震災被害に対しては、学生が率先して募金活動を行い、代表学生が千歳と白老キャンパス分を集めて日本赤十字千歳支部に届けた。

■ 1 1 国際交流

評価項目	評価（4～1）
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4
海外留学に対する適切な体制が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- * 併設の高等学校に留学生が多数在籍しており本校への進学も増えている現状がある。学生課内に留学生担当を配置しており、入国管理局の手続きの研修も受講しており教員が学生の書類に関しての代行業務を行い、常に支援体制を確保している。
- * 2017年度はモンゴル、タイ王国、アルゼンチンからの留学生が入学しており、クラスメイトと一緒に勉学に励み日本の生活を楽しんでいる。就職活動中の中国籍の2年生は日本語検定1級を取得し日本の企業に内定を頂いている。

- *国際航空ビジネス科では、今年度よりニュージーランドに加えオーストラリアでも留学プログラムを実施し、現地の語学学校及び航空専門学校において、語学研修プログラム、客室乗務員の機内サービス、空港カウンターの実習を実施。この間は、フルホームステイによる安全面・健康面共に体制を整えており、日本からは担当教員によるオンラインサービスを使ったサポートなども行っている。
- *全ての学科の学生を対象にして、アメリカ合衆国ハワイ州、マルタ共和国において春・夏・冬休みを利用して実施できる2週間～4週間の短期語学留学プログラムも取り入れて、異文化交流、語学力の向上をはかっている。